

第1学年英語科学習指導案

日 時： 令和4年11月9日（水）5校時

学 級： 花巻市立花巻中学校1年2組

会 場： 1年2組教室

授業者： 清水 奈津美

1 単元名

PROGRAM 7 Research on Australia
(SUNSHINE ENGLISH COURSE 1)

2 単元について

(1) 生徒について

落ち着いて学習に取り組んでおり前向きに授業に参加している。ペア活動にも意欲的に取り組み、誰が相手であっても少人数で話すことには抵抗がない生徒が多い。全体の前で発表することは躊躇する傾向があるが、自分の好きな事柄に関しては積極的に発信したいという姿が見られる。

これまでの授業では、単元で学んだことを使って自己紹介やクラスメイトに関するクイズ、自分の好きな人物紹介などをする中でお互いのことを知る活動を行ってきた。本単元でも、目的・場面・状況を明確にし、学習したことを使って相手に何かを伝えることに必然性を感じさせるとともに、学んだ言語材料を使って積極的に発信する態度を育てたい。

(2) 教材について

本単元は、『中学校学習指導要領解説外国語編』の目標「(2) 読むこと イ 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。」を経て、「(4) 話すこと [発表] イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。」につなげることができる単元であると捉える。

本単元は、エミリーが出身地であるオーストラリアについて健と真央に話している会話文である。オーストラリアはコアラやカンガルー、エアーズロックは有名だが、それ以外の生活や習慣について会話文を通して知り、オーストラリアへの興味を高めたい。また、エミリーのように、自分の住む地域の特徴や良さについて自ら発信する英文作りや主体的な表現活動にもつながる教材である。

(3) 指導について・研究との関わり

本単元の終末に、ALT に向けて花巻市や岩手県など、地元にあるものやいいところを英語で紹介する活動を設ける。単元の導入では、教師自身が地元の紹介を行い、モデルを示すことで単元の目標のイメージをもたせる。Scenes や Think の理解を通して紹介文に使えるような言語材料を習得し、目標達成につなげたい。

本時の展開では、紹介文に使えるような表現である there is / are の表現を、言語活動を行う中で活用させることで定着を図りたい。また、there is / are を使って中学校周辺の店や施設について即興で説明する活動を設定し、単元の目標となる言語活動につなげたい。

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫点

ICT を活用しそれぞれの考えを共有する。

ペア活動の形態の工夫

机間指導

- ・いわての授業づくり 3つの視点について

①学習の見通し

単元の始まりには必ずその単元の目標を生徒に示し、共有する。また、単元シートにも単元の目標と毎時間の目標をあらかじめ記載することで、何に向けて学習活動を行っているか明確にする。

②学習課題を解決するための学習活動

目的・場面・状況を明確にした言語活動を通して、言語材料を繰り返し使うことで定着を図る。

③学習の振り返り

単元シートで授業の終末に振り返りを行うことで、学んだことを自覚させる。

(4) 単元の目標

サム先生に地元の良さを知ってもらうため、花巻市や岩手県など、地元にあるおすすめのものや場所を英語で紹介できる。

(5) 単元の評価規準

話すこと (発表)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>[知識] There is、 there are を用いた文の構造を理解している。</p> <p>[技能] 花巻市や岩手県のおすすめの場所などについて、事実や自分の考えを整理し、there is、 there are などの文を用いて話す技能を身につけている。</p>	相手に花巻市や岩手県のおすすめの場所などについて紹介するために、事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて話している。	相手に花巻市や岩手県のおすすめの場所などについて紹介するために、事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて話そうとしている。

(6) 指導と評価の計画

時間	学習活動 ■ねらい ・言語活動	観点			評価規準【評価方法】
		知	思	態	
1	<p>【Scenes1】</p> <p>■単元の目標を知り、学びの見通しをもつ。</p> <p>■there is、 there are を用いた文の意味や働きを理解する。</p> <p>・教師の地元紹介のスピーチを聞き、単元の目標のイメージをもつ。</p> <p>・Scenes1 を通して there is / are の意味と用法を理解し、ピクチャーカードについて表現する。</p>				

2	<p>【Scenes2】</p> <p>■How を用いた文の意味や働きを理解する。</p> <p>・Scenes2 を読み How を用いた文の意味や用法、答え方を理解し、クラスメイトにインタビューする。</p>	<p>記録に残す評価は行わない。ただしねらいに即して生徒の活動状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないようにする。</p>			
3	<p>【Think1】</p> <p>■健とエミリーの会話を読み、オーストラリアにどんな世界遺産があるか読み取ることができる。</p> <p>・本文のポイントを整理し、音読する。</p>				
4	<p>【Think2】</p> <p>■健、エミリー、真央の会話を読み、オーストラリアの夏の過ごし方を読み取ることができる。</p> <p>・本文のポイントを整理し、音読する。</p>				
5 本時	<p>■花巻市1年目の清水先生に、花巻中学校区のおすすめの場所を紹介しよう。</p> <p>・花巻中学校学区にある場所を英語で説明する。</p>				
6	<p>■花巻市や岩手県など、地元にあるものやいいところを紹介する英文について考えることができる。</p> <p>・マッピングを使ってアイデアを増やし、紹介文を作成する。</p>				
7	<p>■サム先生に地元の良さを知ってもらうため、花巻市や岩手県など、地元にあるものやいいところを英語で紹介する。</p> <p>・作成した紹介文を発表する。</p>	○	○	○	<p>【パフォーマンステスト】</p> <p>【振り返りシートの記述】</p> <p>B…学習した言語材料を適切に使用し、おすすめする理由や自分の考えについてまとまりのある英文で話すことができる。</p> <p>A…学習した言語材料を適切に使用し、おすすめする理由や自分の考えについてジェスチャーなどを交えながらまとまりのある英文で話すことができる。</p> <p>支援を要する生徒…教師が示したモデルの文をもう一度示す。また、机間指導で発音の指導を行う。</p>

3 本時について

(1) 本時の目標

花巻市1年目の清水先生に、花巻中学校周辺のおすすめの場所を紹介しよう。

(2) 本時の評価規準

既習の表現や単語を適切に使用し、おすすめする理由や自分の気持ちを付け加えて紹介をすることができる。

(3) 本時の指導構想

本時は、単元の目標と同じように紹介する相手を明確にして活動する。ペア活動では、実践していく中で「こういう風に言いたいけど言い方がわからない」や、「どのような順序・内容で紹介すれば相手におすすめの場所の魅力が伝わるか」ということについて考えさせながら、活動をくり返していく中でどんどん内容が吟味される手助けとなるような指導をしたい。

(4) 本時の展開

段階	学習活動及び学習内容	指導上の留意点	評価
導入 10分	1 あいさつ 2 既習事項の復習 There is / are の確認 スクリーンに映っているイラストについて表現する。	・単元のゴールを意識させるとともに、既習事項の復習を行う。	
花巻市1年目の清水先生に、花巻中学校周辺のおすすめの場所を紹介しよう。			
展開 30分	3 モデルを示す 「先生が自分の地元のおすすめの場所を紹介するとしたら」とし、モデルとなる紹介文を生徒に伝える。 4 言語活動 ①ペアの人を先生と想定し、おすすめの場所を英語で紹介する。 ②言い方がわからない表現などつまづいたことについて全体で共有するとともに、既習事項を確認する。また、良い紹介をしている生徒を紹介することで、どのような内容なら説得力があるか考えさせる。	・事前に本時の目標について連絡し、紹介したい場所を考えさせておく。 ・ペアでの活動を通して、わからないことやどのような順序・内容で話せば相手に伝わりやすいか考えながら内容を吟味させる。より良い紹介になるよう互いに評価しながら活動させる。 ・机間指導	・既習の表現や単語を適切に使用し、おすすめする理由や自分の気持ちを付け加えて紹介していたか。 【思考・判断・表現】 ・既習の表現や単語を適切に使用し、おすすめする理由や自分の気持ちを付け加えて紹介しようとしていたか。 【思考・判断・表現】
終末 10分	5 発表 代表の生徒何名かが発表する。 6 自分の発表をタブレットで録画し、ロイロノートに提出する。 7 授業の振り返り記入	・指名して発表させ、良かったところや注意事項を共通理解させる。	